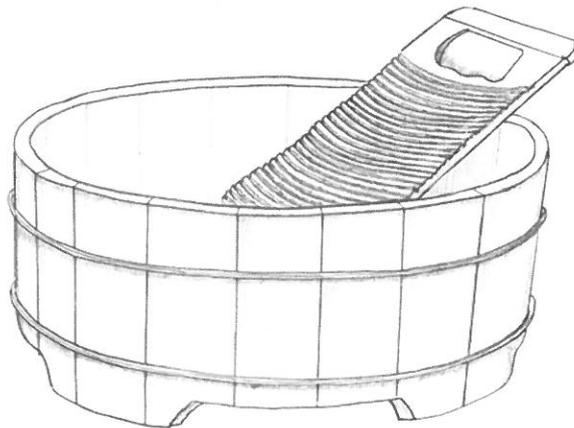




# れきしみんぞく こ じ てん 子ども辞典 改訂版



仙台市歴史民俗資料館

学校名	立	小学校
組・名前	3年	組

## 児童のみなさんへ

みなさんは「何のために昔の人たちの生活や道具などを調べるのですか？」と聞きかれましたら、どのように答えますか？

じつは、私たちの今の生活や、今使っている道具のなかには、昔の人たちの考えや知恵や工夫がもとになって作られているものがたくさんあるのです。粗末そうに見える昔の人たちの生活の道具にも、よく調べてみるととても複雑なしくみと技術が使われているということを知っていましたか。

もし、昔のことを調べる学習を通して、昔の人たちの生き方や考え方、知恵、工夫、技術、私たちに伝えたかった大切な教えなどに気づくことができたなら、「もしかしたら、今の私たちの生活を豊かにすることに役立たせることができるかも知れない」と思いませんか。

この『子ども辞典』は「昔のことを調べることはとても役に立つお勉強なのだ」ということをみなさんに知ってほしいと思って作りました。

よ読んでいただければとてもうれしくおもいます。



注意 ※【展示はしていません】と表示しているもの以外は資料館で実物を見ることができます。

# 目次

むかし ひとひと せいかつ どうぐ  
昔の人々の生活をささえた「道具」についてしらべてみよう!

## I 「衣」に関するもの

- 1 循環型だった昔の人たちの生活 ..... 1  
2 洗濯はとてまたいへんなしごとだった ..... 3  
3 昔は炭火をつかって衣類のしわをのばしていた ..... 5

## II 「食」に関するもの

- 4 田うえまでには、しなければならない  
たくさんのしごとがあった ..... 7  
5 白いお米にするまでにはいくつもの道具がひつようだった ..... 9  
6 脱穀用具のうつりかわりと使い方 ..... 11  
7 はがまで炊いたごはんはとてもおいしかった ..... 13  
8 昔は一人一人が自分専用のおぜんをもっていた ..... 15  
9 昔の冷蔵庫はこおりでひやしていた ..... 17

## III 「住」に関するもの

- 10 昔の人は電気の明るさにびっくりした ..... 19  
11 こたつは一家だんらの場所だった ..... 21  
12 昔の電話は交換手と呼び、相手先につないでもらった ..... 23  
13 テレビは家族のすがたを大きくかえた ..... 25



# 1 循環型だった

きものは自分の  
手でぬいました。

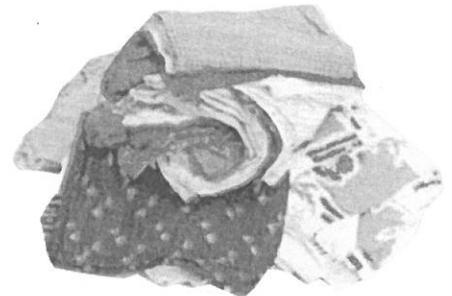
きものをつくる  
ときに出る「切れ  
はしのぬの（ハギ  
レ）」も大切に取っ  
ておき、いろいろ  
なものを作るとき  
に使いました。



【新しくつくられたきもの】

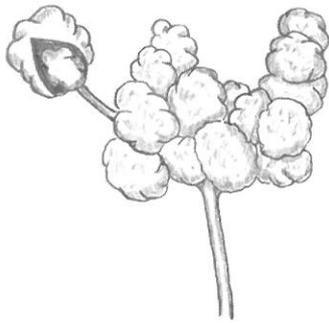


きものをつく  
ったときの  
のこりきれ



【ハギレ】

わたを原料(げんり  
ょう)にして「木綿(も  
めん)」の布(ぬの)を  
織(おり)ました。

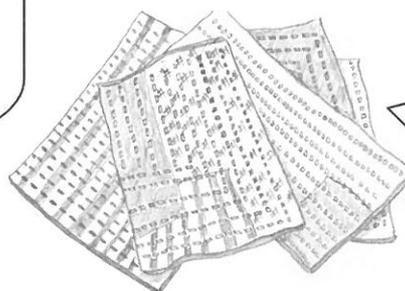


【綿(わた)】

さらに、ボロボロになった布(ぬの)は、  
やいて灰(はい)にして、「わた」などを  
育てる肥料(ひりょう)にしました。

昔の人は知恵(知恵)を働(はたら)か  
せ、工夫(くふう)して、衣類(いるい)の  
よさを生かし、むだなく、じょ  
うずに使いきっていたのです。

【ぞうきん】



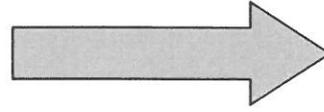
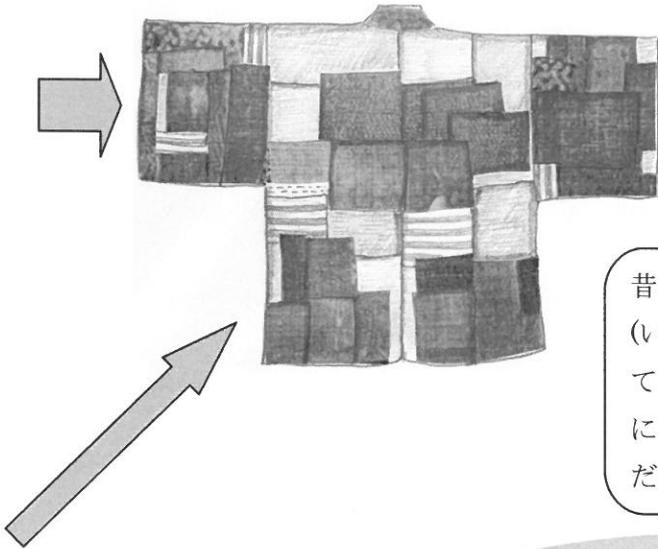
きものなどに使  
えなくなると、  
「ぞうきん」や  
「おしめ」など  
にして、さいごまで  
使い切りました。



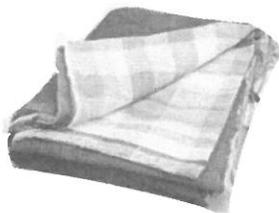
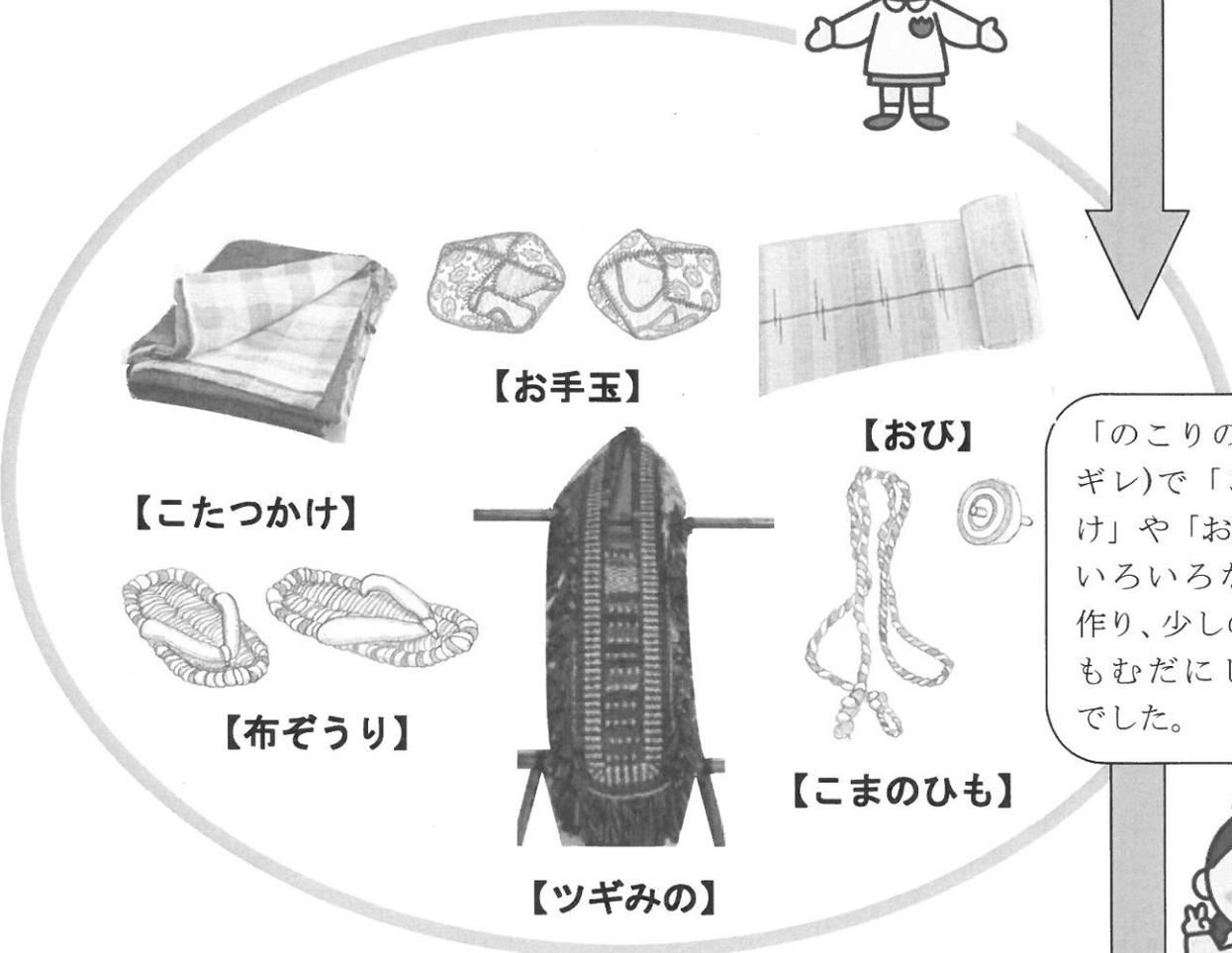
# むかし ひと 昔の人たちの生活 せい かつ

【きものをほぐしてもう一度つくられたきもの】

こもの  
【小物いれ】



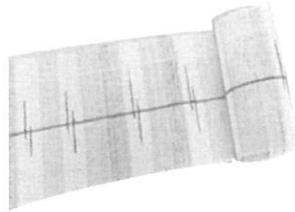
昔の人は「衣類 (いるい)」をと  
てもたいせつ  
にしていたん  
だねえ。



【こたつかけ】



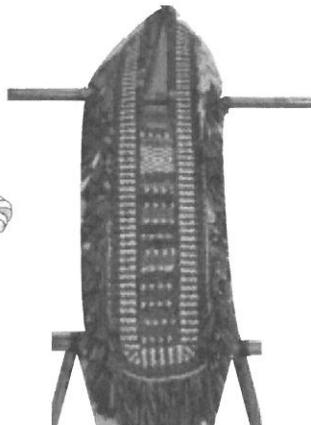
【お手玉】



【おび】



【布ぞうり】



【ツギみの】



【こまのひも】

「のこりのきれ(ハ  
ギレ)で「こたつか  
け」や「おび」など  
いろいろなものを  
作り、少しの「きれ」  
もむだにしません  
でした。



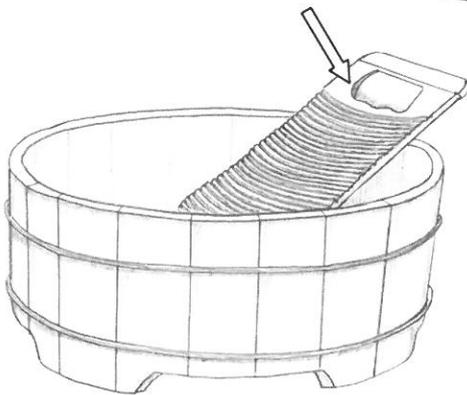
# 2 洗濯はとて<sup>せん</sup>もたい<sup>たく</sup>へんな

**せんたく板とたらい** <sup>はつめい</sup>せんたく板は日本で発明されたものではありません。

<sup>めいじじだい</sup>明治時代の中<sup>なか</sup>ごろ(約 <sup>ねんまえ</sup>130年前<sup>ご</sup>ろ)に、<sup>がいこく</sup>外国から日本に入<sup>はい</sup>ってきたものなのです。

せんたく板はこのようにたらいのふちにななめにかけて、つかいました。

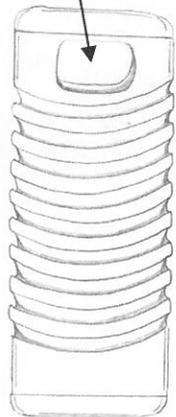
せんたくは、しごとがおわり、ゆうはんのあとかたづけがおわって、夜おそくなってからすることがおかったねえ。冬は水がつめたくて、手にあかぎれができたりして、つらくてほんとうになき出しそうになったもんだよ。



【昔のせんたくのようす】

せっけんをおくぼみがついています。

すすぐとき、せんたく板をうらがえしにします。きざみ目のカーブが下を向いているのでせんざいのあわがおちやすくなります。



【表がわ】

きざみ目のりょうがわが高くなっているので、せんざいのあわがながれおちにくくなっています。



【うらがわ】

せんたくものは一度にぜんぶあらえないので、1まいずつあらったんだよ。

もし、かぞくが7人でひとり4まいずつあらいものがあつたら、どのくらいの時間がかかるのかしら？



おちっこいっぱいしてゴメンね！



ぼくの「おしめ」も毎日何十枚もあらうんだって！

※ せんたく板のきざみ目はこれとはちがうきざみ目のものもあります。

# しごとだった

50年くらい前

30年くらい前

お父さん、お母さんさんが子どもころ

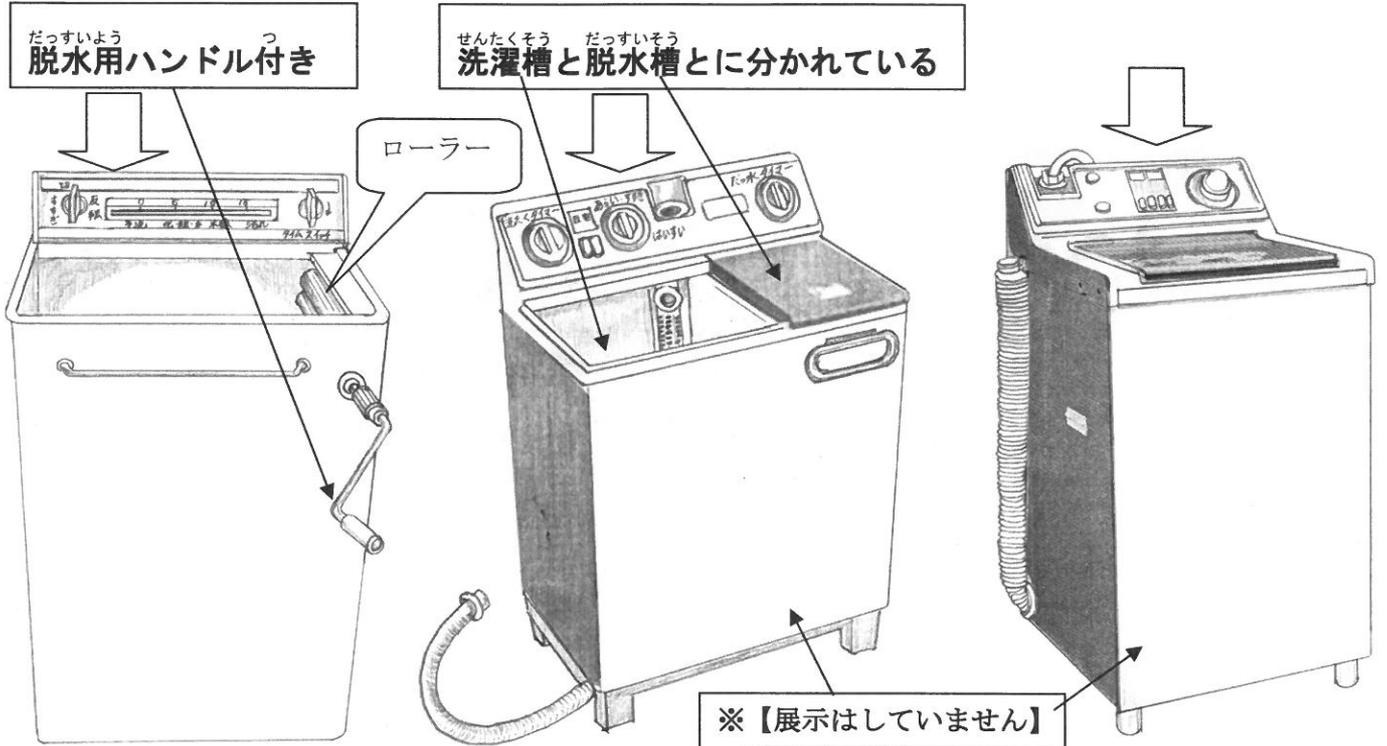
いちそうしきせんたくき  
一槽式洗濯機

にそうしきせんたくき  
二槽式洗濯機

ぜんじどうせんたくき  
全自動洗濯機

だっすいよう  
脱水用ハンドル付き

せんたくそう だっすいそう  
洗濯槽と脱水槽とに分かれている



ローラー

※【展示はしていません】

ローラーのあいだに  
せんたくものをはさ  
み、ローラーをまわ  
して水をしぼりました。  
(資料館に展示してあります)

せんたくするところとだっ水(水  
分を取りのぞくこと)するところ  
と2つに分かれていました。  
だっ水するときは衣るいをだ  
っ水そうにうつしかえました。

せんざいとせんたく物を  
入れて、ボタンをおすだけ  
で、「あらい」「すすぎ」「だ  
っすい」まですべてできる  
ようになりました。

【しつ問1】「せんたく板」は日本で発明されたものでしょうか？  
(こたえ)

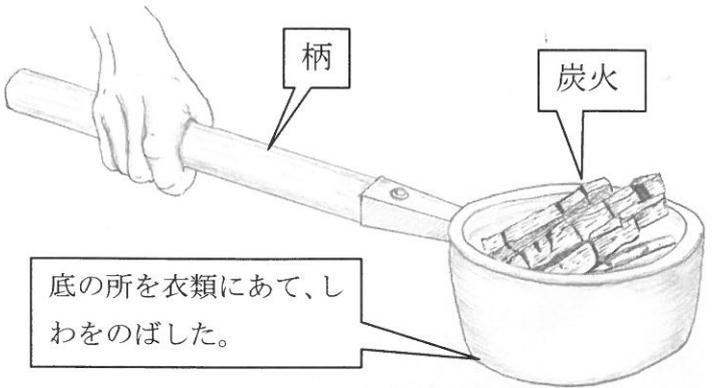
【しつ問2】「せんたく板」のくぼみは何のためについているのでしょうか？  
(こたえ)

【しつ問3】「せんたく板」の表のきざみ目のりょうがわが高くなっているのは  
なぜでしょう？  
(こたえ)

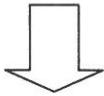
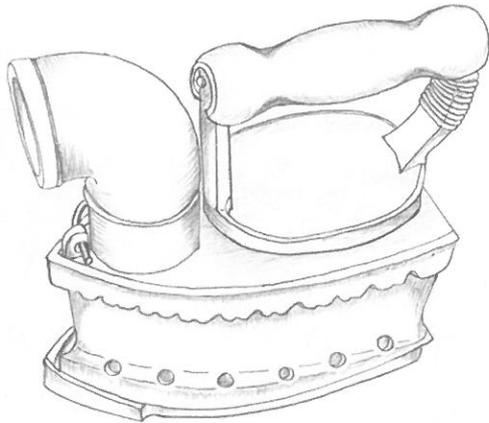
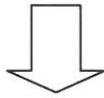
左のしつ問  
(もん)にこたえ  
てみましょう！



# 3 昔は炭火を使って衣類のしわをのばしていた



※【展示はしていません】



## ひのし

え どじだい しょうわしよき  
【江戸時代から昭和初期まで】

「ひのし」とは今でいうと「アイロン」のやくめをする道具です。炭火(すみび)のねつをりようしてあつくし、衣類(いるい)の上にあててシワをのぼしたりするのにつかいました。

電気アイロンがつかわれはじめるようになると、「ひのし」と「炭火アイロン」はしだいにつかわれなくなりました。

中に炭火(すみび)を入れ、柄(え)をもって底(そこ)のたいらな所で衣類のしわをのぼしました。

## すみび 炭火アイロン

めいじじだい しょうわ  
【明治時代から昭和30年ごろまで】

形は今のアイロンと似(に)ています。「ひのし」と同じように中に炭火を入れてつかいました。

## でんき 電気アイロン

しょうわしよき しょう  
【昭和初期から使用】

さいしょのころの電気アイロンはおんどの調節(ちょうせつ)ができませんでしたが、火を使わないため、炭火(すみび)で衣服(いふく)をよごすしんぱいがなくなり、おおくの人によろこばれました。

# すみ び だい ず かい 炭火アイロン大図解

①

炭火アイロンのしゃしんです。

とめがねをはずして  
ふたをあけると、底に  
炭をのせる台 (①) が  
おいてあります。

底にこのようなきんぞく  
の板がしいてあります。

ふたが開か  
ないようとし  
めるためのとめ  
がね

さきのところを  
穴にさしこむ

けむりを出すためのえんとつ

とめ  
がね

炭火アイロンをう  
しろから見た図で  
す。  
ボタンのようなハ  
ンドルをまわして  
空気の出し入れを  
して、炭のおんどを  
調節(ちょうせつ)し  
ます。

ハンドル

空気の出し入れあな

置いた所がやけない  
ように、アイロンの下  
にしくきんぞくの板

ただ炭を入れればアイロン  
として使えるわけではありません。温度(おんど)を調節(ち  
ょうせつ)するため、どんな工夫がされているか分かったこと  
を書いてみよう!

---



---



---



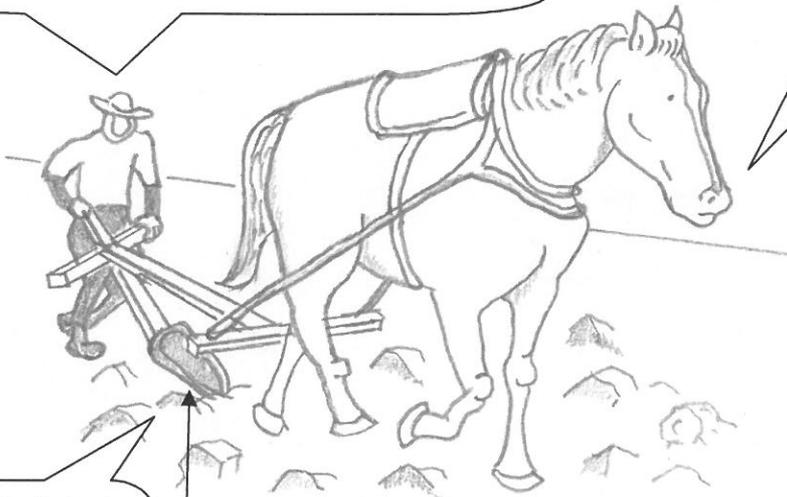
# 4 <sup>た</sup>田うえまでには、しなければなら

みなさんの中には「田うえ」の<sup>たいけんがくしゅう</sup>体験学習をしたことがある人<sup>ひと</sup>もいると思います。みなさんは「な<sup>おも</sup>

<sup>さいしょ</sup>最初に「土<sup>つち</sup>をたがやす(やわらかくする)」しごと(田<sup>た</sup>おこし)をした

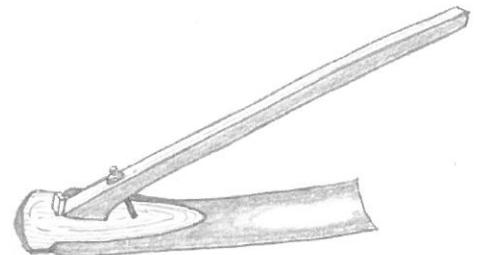
土がかたくて、ほりおこすのがたいへん！もうつかれてへとへとだよ！

本当はぼくがいちばんつかれているんだけどね！



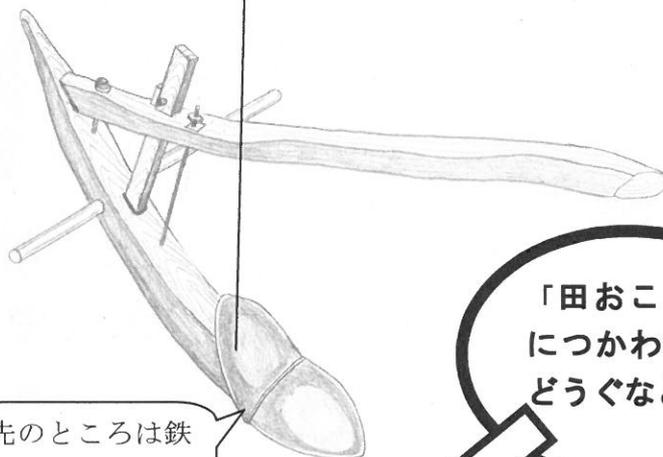
これは「馬耕(ばこう)すき」をつかって田おこしをしているようすの絵です。

このようにして馬耕すきを馬にひかせてつかいました



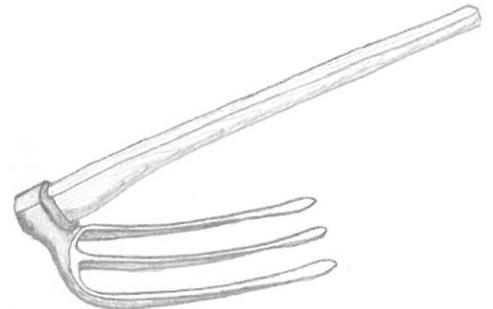
## 【ひらぐわ】

江戸時代は「ひらぐわ」が多くつかわれました。



先のところは鉄でできている

「田おこし」につかわれた  
どうぐなど



## 【馬耕(ばこう)すき】

明治時代になると、馬にひかせる「馬耕すき」がつかわれるようになりました。

## 【三本鍬(さんぼんっこ)】

馬耕すきがつかわれるまではこれで「田おこし」をしました。

# ないたくさんのしごとがあった

え」を植えるだけでも大変だったと思いますが、田植えをするまでには多くの準備が必要でした。

つぎ しろ た みず い つち  
次に「代かき(田に水を入れて土をならす)」のしごとをした

【ふた】ねじ  
でとめた

く ひしゃく  
【汲み柄杓】

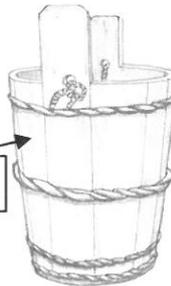
人糞尿(じんぷんにょう)を肥桶(こえおけ)からくんだり、田などにまいたりするときにつかいました。



※【展示はしていません】

こえおけ  
【肥桶】

人糞尿などをいれるときにつかいました。



よ たる  
【四っ樽】

人糞尿をはこぶいれもの。昭和30年代ころまでは、人糞尿などがひりょうとしてつかわれていました。(人糞尿とは人間のおしっこやうんこなどのことです)



ちゃんとまっすぐになるように馬をあるかせなさい!



足がぬかるんであるきづらいよう!

馬の「鼻取(はなどり)」をして、馬をまっすぐあるかせるのは子どもたちのしごとでした。

【マンガ】

これは「マンガ」を馬に曳かせて「代かき」をしているようすの絵です。

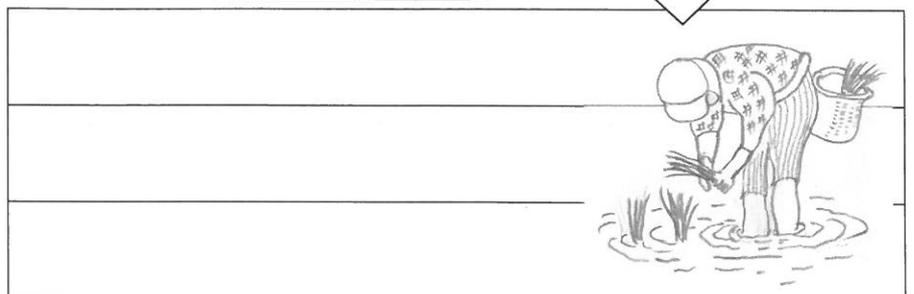


どんなことがわかったかな? わかったことを書いてみよう!

やっと田うえができるようになったよ!

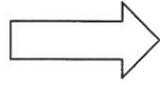


ここまでじゅんぴして、はじめて田うえができるようになるんだね。

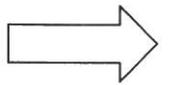


# 5 白いお米にするまでには

しろ  
だっこく  
脱穀



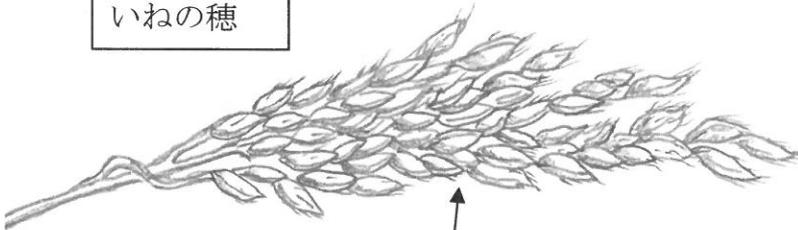
せんべつ  
選別



脱穀(だっこく)とは、いねの穂(ほ)からもみつぶを取(と)り分(わ)ける作業(さぎょう)のことをいいます。

選別(せんべつ)とはよいもみとわるいもみやゴミなどを分ける作業のことをいいます。

いねの穂



よいもみ



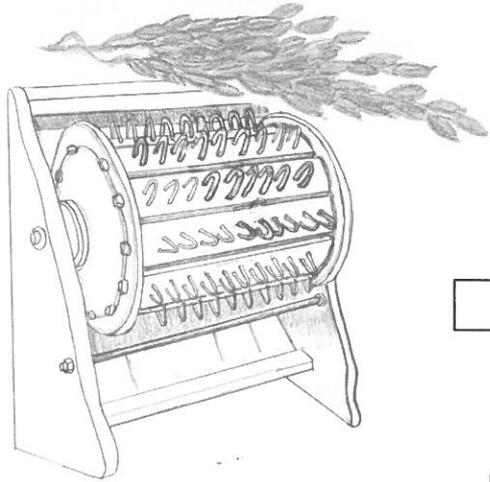
「よいもみ」と「わるいもみ」と「ゴミ」などがまじっている。



「わるいもみ」  
(実があまり入っていない)



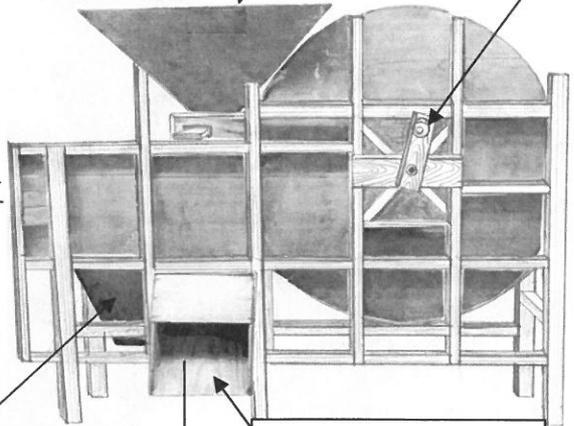
「ゴミ」



【あしづみだっこき】

ここから入れる

ハンドル



ゴミ

わるいもみが出てくる

よいもみが出てくる

【とうみ】

だっこくきのうしろに立って、板を上下にふむとV字のかたちまげられた、てつをついた丸いドラムがまわります。そこにいねの穂をあてると、もみがパラパラとはじかれます。

だっこくしたもみには、実がいっぱいまった「よいもみ」とあまりはいっていない「わるいもみ」といねのくきや葉などのゴミがまじっているので、はねのついたハンドルをまわし、風の力でゴミなどをより分けます。

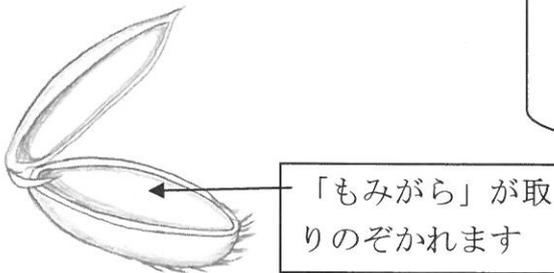
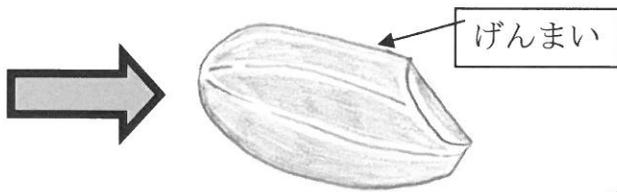
# いくつかの道具がひとつようだった

もみ  
籾すり

せいまい  
精米

もみすりとはもみがらを取(と)りのぞき、玄米(げんまい)をとり出(だ)す作業(作業)のことをいいます

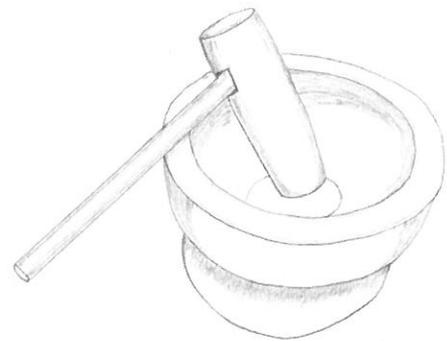
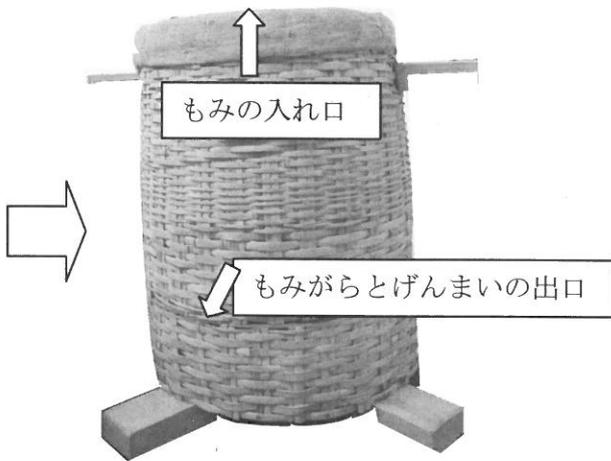
げんまいからこめぬかや胚芽(はいが)などを取りのぞく作業のことをいいます



むかしは「はくまい」にするまでに、こんなに多くの道具をつかっていたんだね!



「こめぬか」などが取りのぞかれる



【どずるす】

【うす】と【きね】

上からよいもみを入れ、グルグルまわすと、まんなかのところから、「げんまい」と「もみがら」に分かれて出てきます。

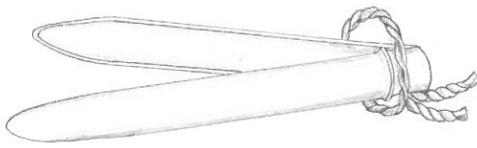
うすの中に入れて「きね」でつくると、こめぬかなどがとれて、まっしろいお米(はくまい)になります。

だっ こく よう ぐ

# 6 脱穀用具のうつりかわり

## 【こきはし】

千歯扱きが発明されるまで長い間使われてきた



① 2本の竹でいねのほをはさみます。

② いねのたばを手前（自分のからだの方）にひっぱります。



① 金属のとがっているところにいねのたばをあてます。

② 自分の体の方にいねのたばをひっぱり、しごいていねのほをおとします。

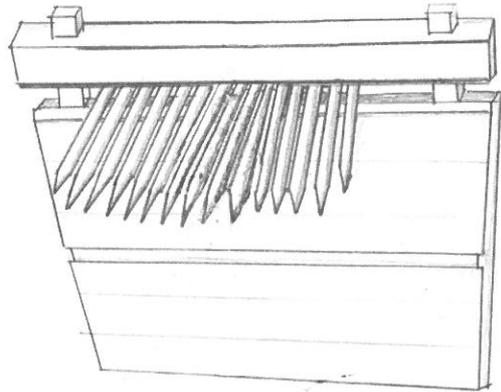
③ いねのほがとれておちてきます。

よいもみと悪いもみとゴミなどがまじっています。

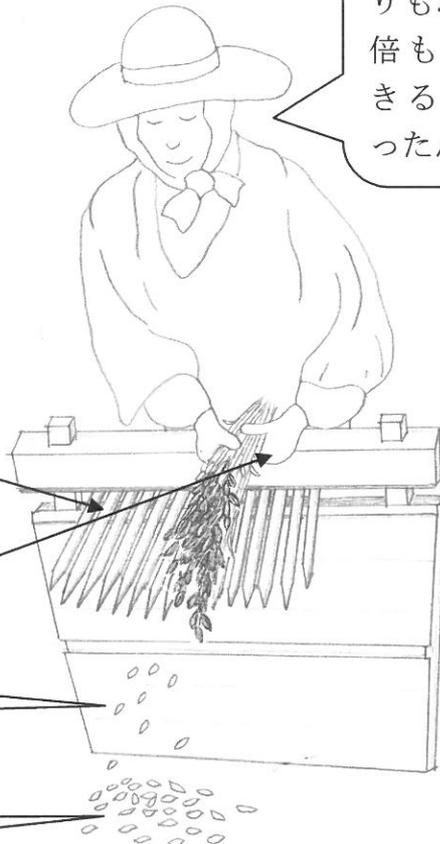
せんば こ

## 【千歯扱き】

江戸時代（元禄年間）（およそ320年くらい前）に発明され、大正時代の最初のころ（およそ100年前）まで使われた。



「こきはし」よりもおよそ10倍もはやくできるようになったんだよ！



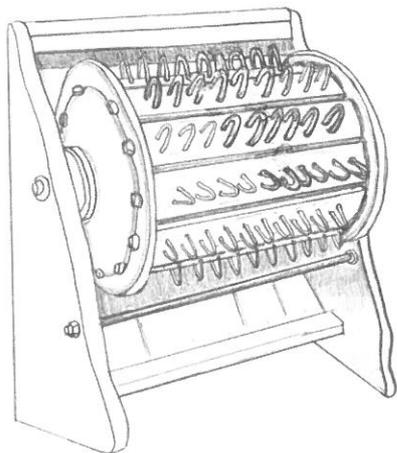
# つか と使い方

「速(はやく)」「かんたんに」作業(さぎょう)するための道具を発明(はつめい)した昔の人たちの知恵(ちえ)はすごいですね!



## 【足踏み脱穀機】

明治時代の終わりころ(およそ 100 前)に発明され、大正、昭和の初めころまで使われた



## 【コンバイン】

昭和 40 年ころ(およそ 50 年前)から使われるようになった

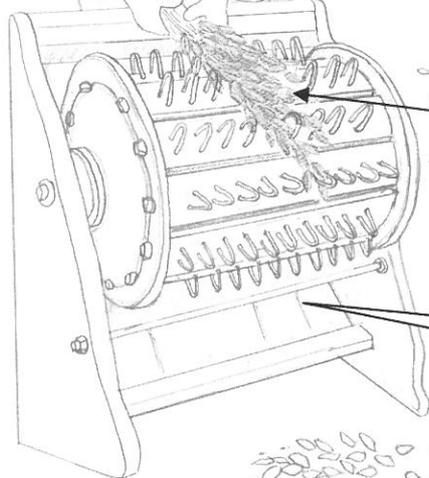


(「米作りの昔と今」創栄出版より引用)



千歯こきよりもおよそ 5 倍もはやくできるようになったんだよ!

今までは、いねかりして、いねをたばね、かんそうさせて、だっこくを行わなければなりません。コンバインが使われるようになると、これらの作業(さぎょう)が同時(どうじ)に行われるようになりました。作業がとても楽(らく)になりました。



①足で板をふんで、ドラムを回転させます。

②ドラムについている鉄の金具にいねのたばをあてます。

③いねのほがとれておちます。

この板を足でふんでドラムを回転させます

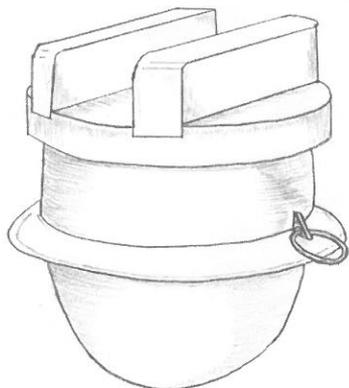
よいもみと悪いもみとゴミなどがまじっています。

足踏み脱穀機は「こきはし」とくらべて、何十倍のはやさでできるようになったのかな?



# 7 はがまでいたごはんはとてもおいしかった

はがま



電気すいはんき



でんすいはんジャー



でんきがまがつかわれる前までは「はがま」でご飯をたきました。よいところは、火のいきおいがつかいので、ごはんがとてもおいしくたけることやいちどにたくさんたけることができることです。

ねんりょうがたきぎなので、ねんりょう代があまりかかりませんでした。

たいへんなところは、水かげん、火かげんがむずかしいことと、たきあがるまでずっとそばについていなければならないことなどでした。

昭和30年（およそ60年前）ころからつかわれるようになりました。スイッチひとつでご飯がたけるようになりましたが、タイマーがなかったので、ご飯をたくじかに、手でスイッチを入れなければなりませんでした。

昭和60年（およそ30年前）ころからつかわれるようになりました。

タイマーがついたので、時間をよやくすることができるようになりました。保温機能（ほおんきのう）もついたので、たきあがったご飯をそのままあたたためておくことができるようになりました。

べんりになったことをかんたんにまとめてみよう！

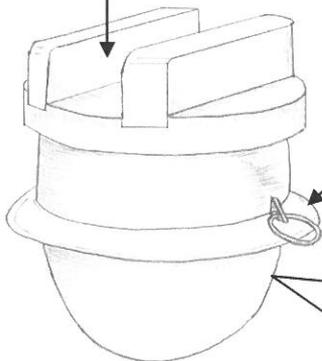
はがま	電気すいはんき	でんすいはんジャー



# はがまとかまど<sup>だい ず かい</sup>大図解

## 【ふた】

「ふた」は厚(あつ)くておもしろい木でつくられています。それは、かまの中からじょうきがふきだしても、おきえられるようにするためです。



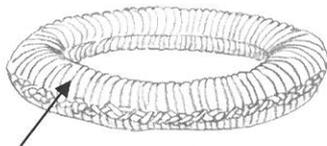
## 【つば】

「かまど」にのせたとき、はがまが下におちないようにまわりを刀のつばのようにでっばらせてあります。

昔は、かまどに火をおこして、ごはんをたかなければならなかったんだよ！でもね、はがまだいたいたごはんはとってもおいしいんだよ！



底が丸いので、熱が全体に伝わりやすい。



## 【釜敷 (かましき)】

底が丸いかまをおくためのしきものです。わらをあんで作りました。

※【展示はしていません】



## 【火ふき竹】

火がよくもえるように口でふいて風をおくるとうぐです。

## 【火けしつぼ】

もやしたあと、のこったけしずみなどをいれておきます。

## 【メモ用紙】

ごはんをたくためには、そのためにひつような道具があったということが分かりましたか？



# 8 昔は一人一人が自分専用のおぜんをもっていた

つかわれていた時代 (じだい)	【箱膳 (はこぜん)】 ちゃぶだいなどがしようされるまで
-----------------	---------------------------------

ここがうごきます。

【じざいかぎ】  
なべなどをつるすのにつかわれました。

このぼうが上の太いぼうの中にはいりません。上に上げるとみじかくなり、下にさげると長くなります。

きんぞくのできた板で、ひっぱるとぼうがうごきます。

この魚の形をしたものがぼうがさがらないようにするストッパーのはたらきをしました。

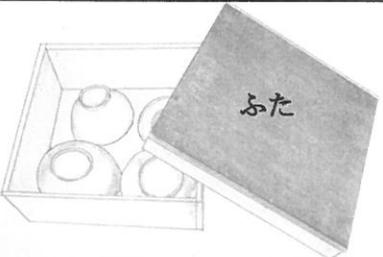
【箱膳 (はこぜん)】  
だれもが自分用の箱膳をもっていました。箱膳にはごはん・おわん、さら、はしなどが入っていました。

食事中(しょくじちゆう)はきちんとすわって食べたんだよ。おしゃべりなどをすると「ぎょうぎがわるい」といってしかられたんだよ。

## 箱膳 (はこぜん) のつかいかた



自分用のはこぜんをよういします



ふたをあけて中の食器をとりだします



ふたをうらがえしにしてはこぜんの上へのせます



おかずの種類（しゅるい）もふえ、かぞく盛（もり）にするようになると、家族みなでちゃぶだいのまわりにすわって食事をするようになりました。

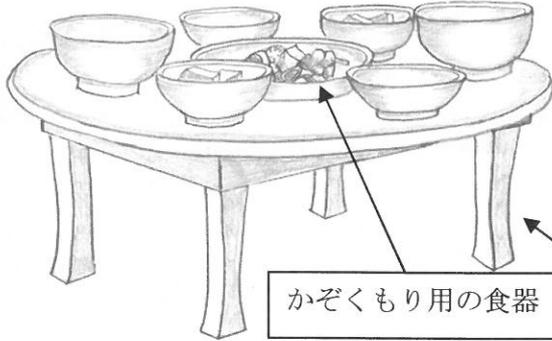
西洋風（せいようふう）の生活習慣（せいかつしゅうかん）が広がるようになると、家族がいすにすわって食べる食事のスタイルにかわっていきました。

**【ちゃぶだい】**

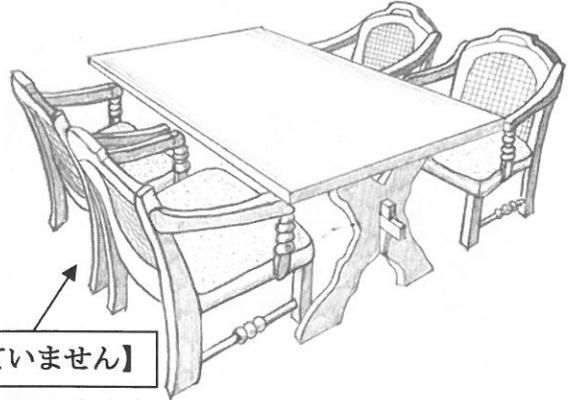
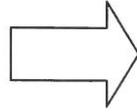
昭和の初めころ（およそ90年くらい前）から

**【テーブル】**

昭和35年ごろ（およそ50年くらい前）から



かぞくもり用の食器

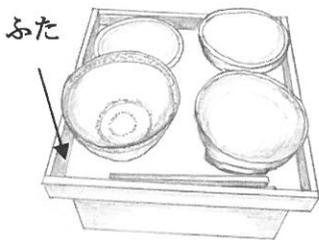


※【展示はしていません】

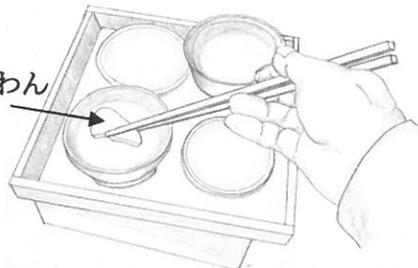


お父さん、お母さん、こどものすわるばしょなどはきちんときまっていたんだよ。

いろりをつかってすいじもしたんだよ。  
そのほか、いろりは「明かり（照明）」と「だんぼう」のやくわりもはたしたんだよ。



ふたの上に食器をのせます



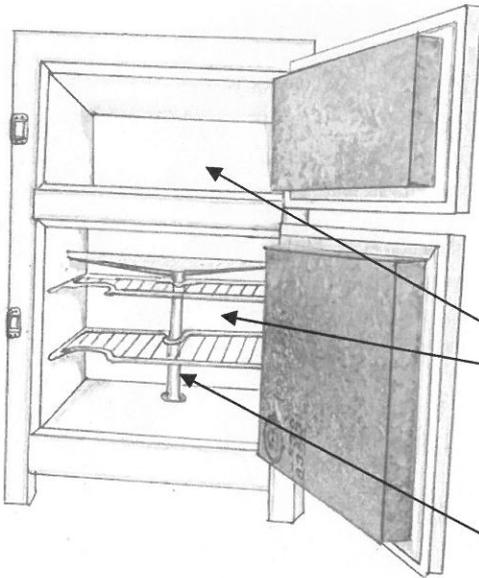
たべおわったらお茶やはしでつまんだたくわんで食器のまわりをきれいにします



食器をはこぜんの中に入れて、ふたをしてしまいます。

# 9 昔の冷蔵庫はこおりでひやしていた

## こおりれいぞうこのひみつ大解説 だいかいせつ



昭和 20 年 (1945) 代ころから、でんきれいぞうこが使われるようになる昭和 30 年 (1955) 代までつかわれていました。

外がわは木で、内がわはきんぞくでできています。

こおりを入れる場所とたべものなどをいれる場所と 2 つにわかれていています。

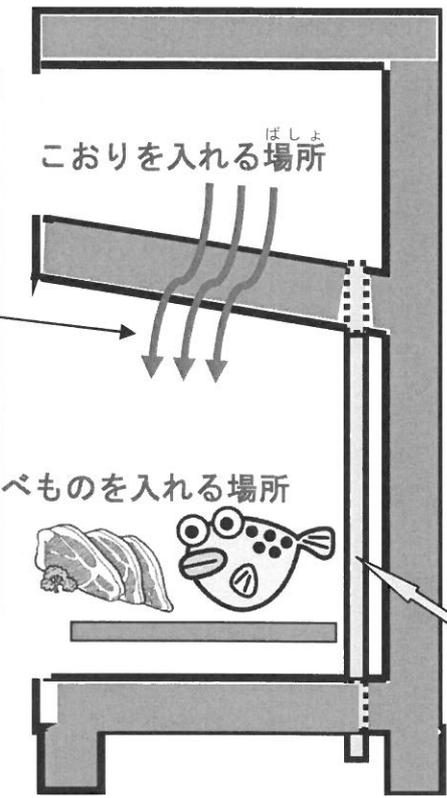
とけたこおりの水はパイプをとおって外にながれていくので、れいぞうこの中はべとべとになることはありませんでした。

こおりはこおりやさんが、配達 (はいたつ) してくれるのを買(か)いました。

れいぞうこのなかった家は、井戸(いど)でたべものをひやしました。昔は井戸がれいぞうこのやくわりをしていました。

昔はその日に食べる分だけのかいものをしたので、れいぞうこがなくてもそれほどこまりませんでした。

つめたい空気が下におりていき、ひやします。



とけたこおりの水を外にながすパイプ

【こおりれいぞうこをよこから見た図】

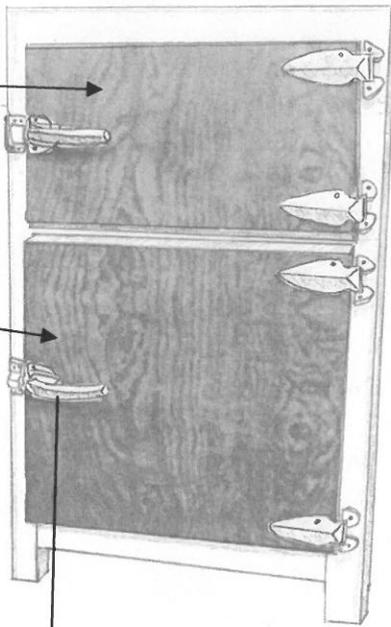
# こおりれいぞうこ大<sup>だい</sup>図<sup>ず</sup>解<sup>かい</sup>

前からみた図

ふたをあけた中のようすの図

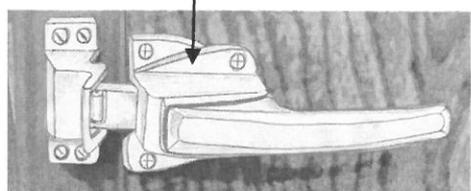
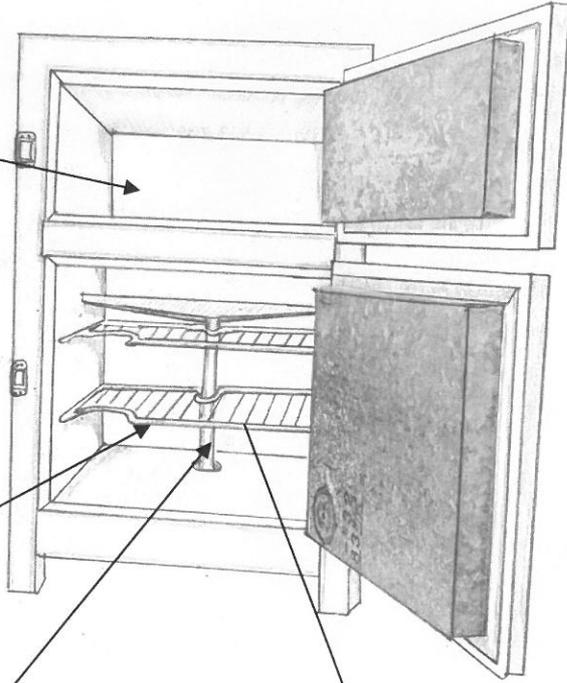
こおりをいれるへや

たべものなどをいれるへや



この中にこおりをいれます

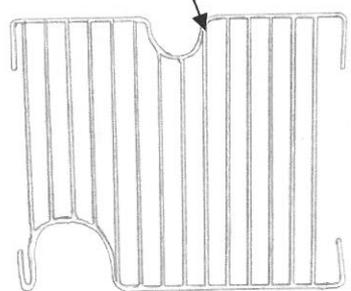
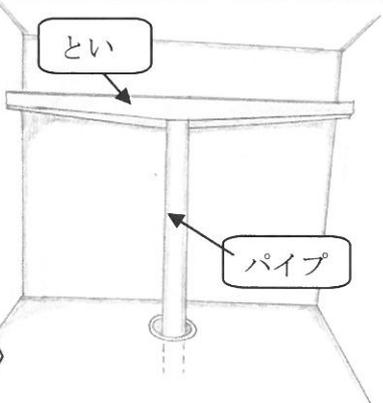
たべものなどをおくたな



ドアのとってのかくだい図

てまえにひくとドアがあきます

とけたこおりの水を外にながすパイプ



とけたこおりのみずは「とい」にたまり、パイプをとおって外にながれます。

昔はれいぞうこが今のよう  
に大きくなくてもあまりこま  
りませんでした。なぜでしょ  
う。どこかにヒントが書いて  
あるよ！ 考えてみてね！


# 10 昔の人は電気の明るさにびっくりした



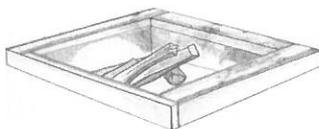
## あかりのうつりかわり

【いろり】

【あんどん】

【ランプ】

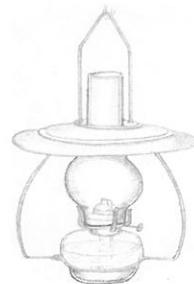
【でんとう】



↑  
いろりの火はあかりのはたらきもしていました。



↑  
江戸時代から明治30年ころまでつかわれました。中にあるしんに火をつけると、紙に光がひろがり、あんどんの近くが少しあかるくなりました。



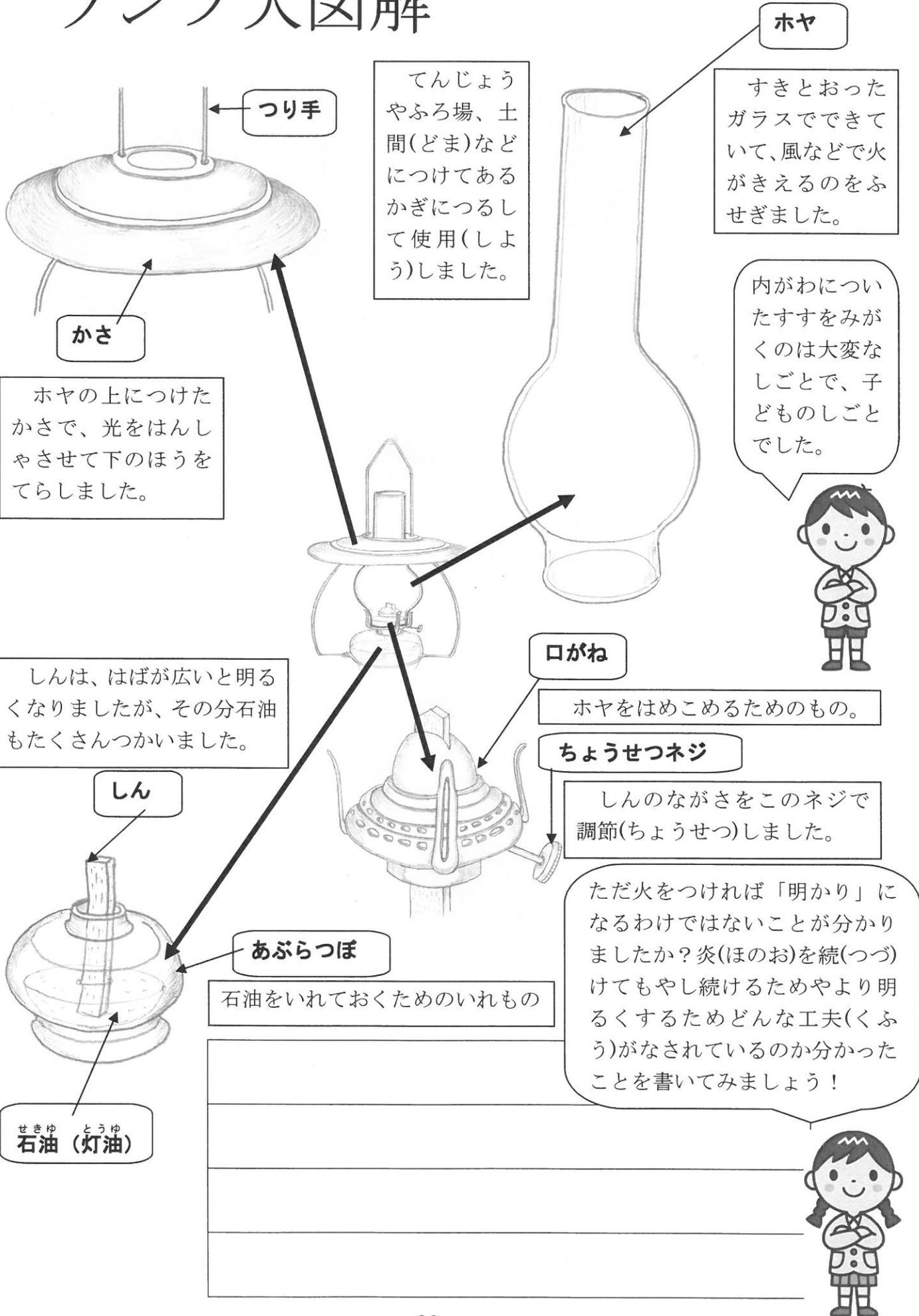
↑  
明治10年(およそ135年前)ころからつかわれるようになりました。今ほど明るくはありませんが、はじめてランプを見た人はその明るさにおどろきました。



↑  
仙台では明治時代の終わりころから、大正時代のさいしょのころにかけてつかわれるようになりました。



# ランプ<sup>だいずかい</sup>大図解



ホヤ

すきとおったガラスでできていて、風などで火がきえるのをふせぎました。

内がわについたすすをみがくのは大変なしごとで、子どものしごとでした。



てんじょうやふる場、土間(どま)などにつけてあるかぎにつるして使用(しよう)しました。

ホヤの上につけたかさで、光をはんしやさせて下のほうをてらしました。

しんは、はばが広いと明るくなりましたが、その分石油もたくさんつかいました。

口がね  
ホヤをはめこめるためのもの。

ちょうせつネジ  
しんのながさをこのネジで調節(ちょうせつ)しました。

ただ火をつければ「明かり」になるわけではないことが分かりましたか？炎(ほのお)を続(つづ)けてもやし続けるためやより明るくするためどんな工夫(くふう)がなされているのか分かったことを書いてみましょう！

あぶらつぼ  
石油をいれておくためのいれもの

せきゆ とうゆ  
石油 (灯油)

---



---



---



---



# 11 こたつは一家だんらんの場所だった

いっか

ぼしょ

お父さん、お母さん、ことしもおしごとごころうさんでした。

らいねんもお米がたくさんとれるといいね！

かぞくみんな元気なのがいちばんうれしいよ。

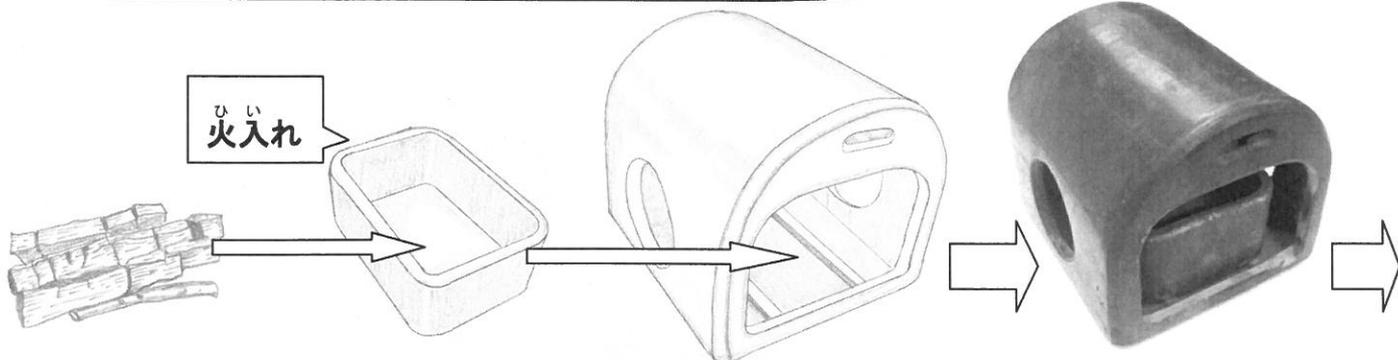
うちのまごも大きくなったなあ。

おまえもお母さんのしごとをいっばいてつだってくれたね。ありがとう！

みかんもみんなでたべるとおいしいね！



あんか(土製あんか)をつかったこたつのセットのしかた



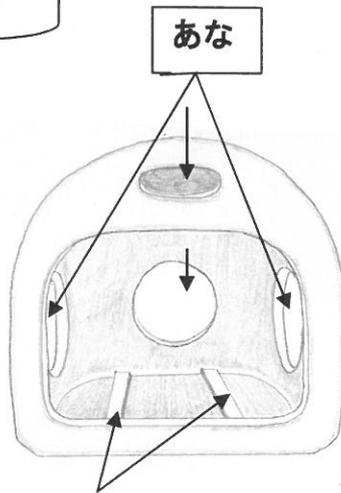
炭(すみ)をおこして、火入れの中に入れます。

炭を入れた火入れをあんかの中に入れます。

このようにしてしようします。

# 電気こたつがつかわれる前のだんぼう用具

## あんか（土製あんか）



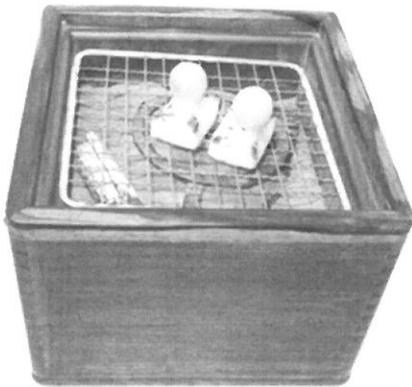
「火入れ」をのせる台

前から見た図

手足をあたためるための暖房具（だんぼうぐ）です。やけどしないように、土製（どせい）の火入（ひい）れに炭火を入れてつかいました。その上にこたつやぐらをおき、その上にふとんをかけてつかうこともありました。

でんきこたつが登場（とうじょう）すると、「あんか」はしだいにつかわれなくなりました。

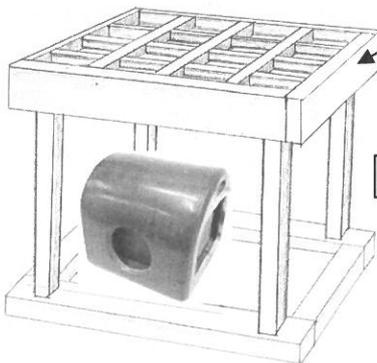
## ひ 火ばち



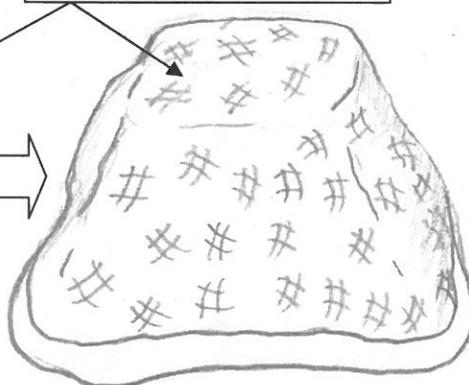
手をあたためたり、おゆをわかしたり、もちをやいたりなどしてしようされただんぼう具です。中に灰（はい）を入れ、炭（すみ）をおこしてしようしました。場所（ばしょ）をうつしてしようすることもできました。

今、環境（かんきょう）にやさしいだんぼうきぐとして「ゆたんぼ」などが見なおされています。あなたはどう思いますか。

※【展示はしていません】



あんかの上にこたつやぐらをのせます。



ふとんをかぶせてこたつとしてしようしました。




むかし でんわ こうかんしゅ よ あいてさき

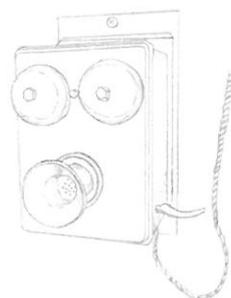
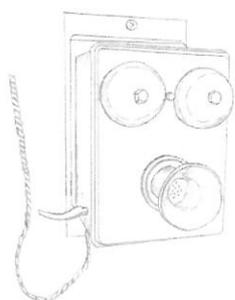
# 12 昔の電話は交換手を呼び、相手先につないでもらった

こちらは仙台の電話番号1番のものです、東京の2番をおねがいします。

東京の2番をおよびいたしますので、しばらくおまちください。

東京の2番さんに仙台の1番さんからお電話ですよ。

電話がつながるまで長いじかんだがかかることもあったんだよ。



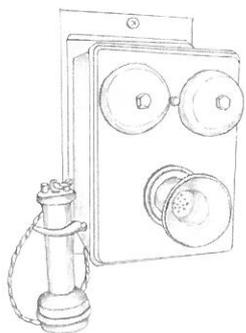
でんわき れきし

## 電話機の歴史

最初のころの電話

ダイヤル式電話

最初のころのけいたい電話

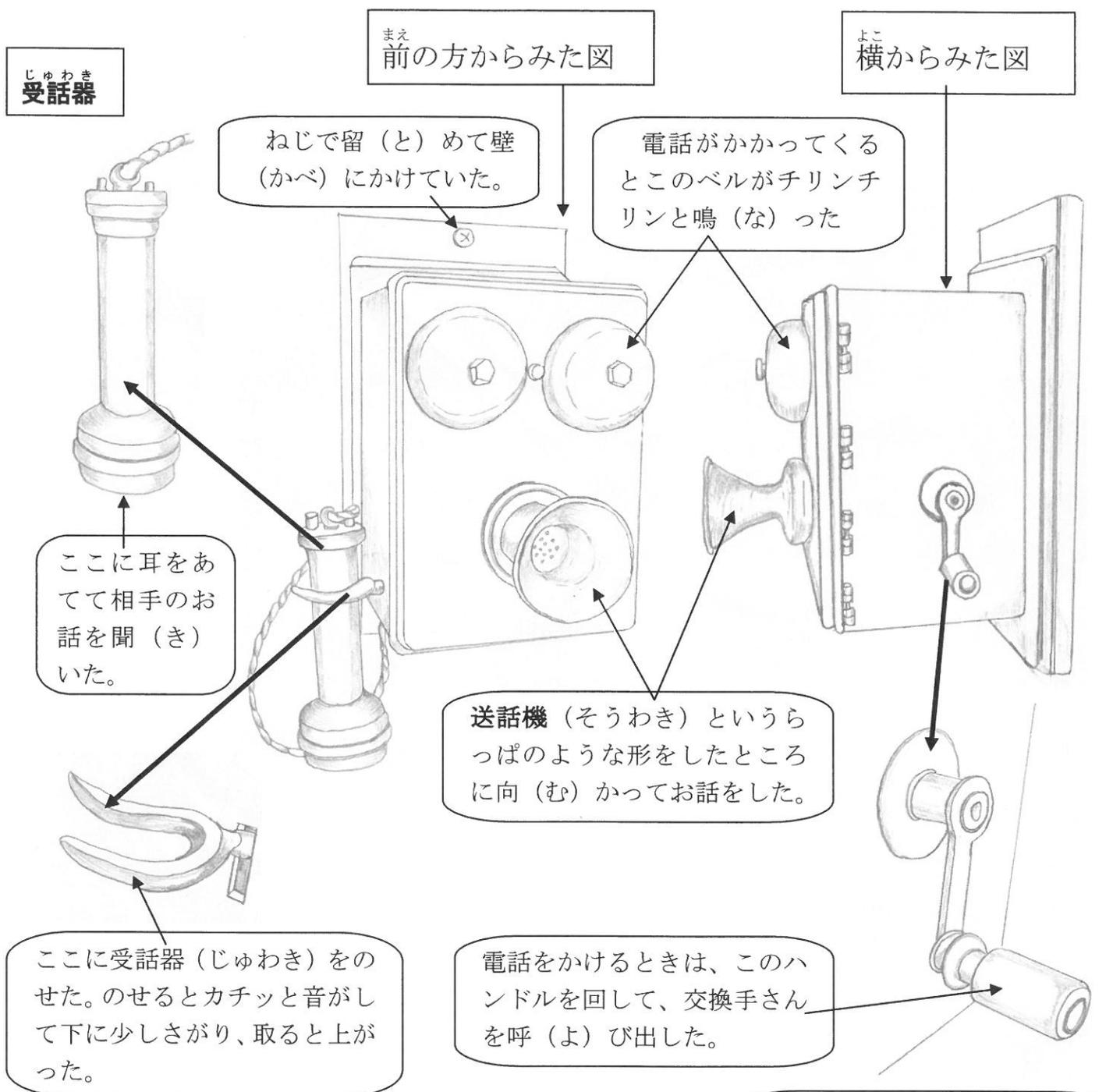


電話をかけるときは、こうかんしゅをよんで、あいての電話につないでもらいました。

電話をかけるときは、ダイヤルであいての電話ばんごうを回しました。

移動（いどう）しながら、電話をかけたりすることができるようになりました。

# 最初のころの電話機大図解



けいたい電話とのちがいを  
見つけて書いてみよう！

---



---



---

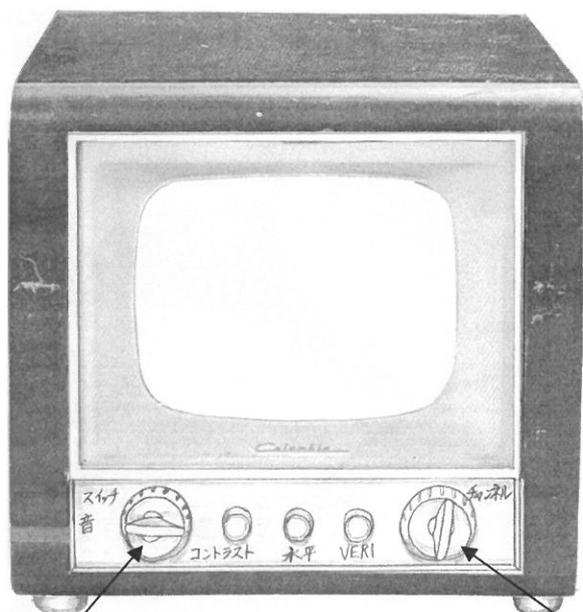


---



# 13 テレビは家族の姿を大きくかえた

ほうそう かいし しょうわ ねん ねんまえ  
放送が開始されたころ【昭和30年ころ（およそ60年前）】



白黒のえいぞうがうつるテレビで、スイッチをひねってもすぐにはうつりませんでした。

番組（ばんぐみ）をかえたり、音声（おんせい）や画像（がぞう）を調節（ちょうせつ）するのにいちいちチャンネルなどをまわさなければなりませんでした。

番組用チャンネル

音声用チャンネル

おもなできごと

しょうわ とうきょうほうそうきょく ほうそう かいし  
昭和28年2月1日 NHK東京放送局が放送を開始する。

ねだんがとても高かったので、テレビのあるところにみんなが集まって見ていた。

プロレスやすもうなどのスポーツ放送が人気をあげた。

かてい 家庭でもテレビが買えるようになると、家族を結びつける「だんらん」の道具になった。

テレビを見ることが生活の中心になっていった。

NHK のほかにテレビ局がふえると、見たい番組を家族であらそう「チャンネルあらそい」がおこった。

テレビにリモコンがつくと何度もチャンネルをかえ、一つの番組をつづけて見ることがすくなくなかった。

かてい なんだい ふつう  
家庭にテレビが何台もあるのが普通になったころ

【昭和60年ころ（およそ30年ほど前）】

しょうわ  
昭和58年（30年前）にファミコンが大ヒットしたころから、子どもが自分用のテレビをもち始めるようになった。

み ばんぐみ が じかん み  
ホームビデオがひろまり、見たい番組はろく画してべつの時間に見ることができるようになった。

かぞく ひと  
家族が一つのテレビにあつまることがすくなくなった。

かぞく どうぐ  
テレビが家族だんらの道具でなくなっていった。

白黒テレビにくらべると「つまみ」の数が多くなりました。色もつまみで調節(ちょうせつ)しました。

今まで見てきた道具の中で、どんな道具（どうぐ）がいちばん心にのこりましたか？

ひとつえらんでかんそうを書いてみよう！

昭和50年(1975)に作られたカラーテレビ  
カラー放送は昭和35年(1960)にはじまりました。

